
西知多道路の整備促進に関する要望書



平成26年4月

西知多道路推進協議会

西知多道路の整備促進について

平素は当地域における道路整備につきまして、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

知多地区は、名古屋市の南部に位置する5市5町からなり、総人口約62万人、面積は約391km²であります。

平成17年2月に常滑沖の伊勢湾海上に中部国際空港が開港し、世界各都市や国内の多くの都市と結ばれ、中部圏の空の玄関口としての役割を果たす重要な地区であるとともに、国際拠点港湾である名古屋港の一部を形成する地区でもあります。

社会経済のグローバル化が進展する中、本地区はもとより我が国が成長していくためには、中部国際空港が真に24時間運用可能な機能を備えることが不可欠であり、その実現に向けて、地域一丸となって鋭意取り組んでいるところです。

このような中、今年度には、新東名高速道路の愛知県区間の開通や平成39年度のリニア中央新幹線の開業に向けた現地着手が予定されるなど、国土の骨格を支える高速交通体系の整備が着実に進んでおります。しかし、現在、中部国際空港への主なアクセス道路は、知多半島の自動車交通の円滑化と産業開発等を目的として整備された知多半島道路であり、観光シーズンの交通渋滞や交通事故時の通行止めなどもあるため、国際拠点空港へのアクセス道路としての信頼性及び高速性は、必ずしも高くないのが現状です。

西知多道路は、**国際拠点空港の中部国際空港と高速自動車国道の新東名高速道路（伊勢湾岸自動車道）を直結するとともに、名古屋高速道路を經由してリニア中央新幹線（名古屋駅）を結び、中部国際空港へのアクセスの充実、定時性の確保、利便性の向上、**

更には、発生が危惧される南海トラフ巨大地震等の災害時において、緊急輸送道路としての機能を有する重要な路線であり、地域の産業力、経済力の活性化、ひいては日本経済を牽引する役割を果たすものであります。

また、直轄国道の地方への権限移譲の議論が進む中、平成25年12月に閣議決定された「事務・権限の移譲等に関する見直し方針について」においては、地方管理道路・河川の直轄編入を含め、必要な見直しを行うこととされており、国際拠点空港と高速自動車国道を直結する本道路は、国と地方の役割分担のもと、国が責任を持つべき道路と考えております。

本年4月11日には、都市計画決定の告示がされ、1日も早い事業化が望まれるところです。

そのため、次の事項の実現に特別のご配慮を賜りますよう、お願い申し上げます。

- 1 今年度中に、県管理の国道155号・247号の直轄編入を決定すること。
- 2 早期事業化に向けて、今年度、直轄調査を実施すること。
- 3 真に必要とする道路の予算を確保し、緊急かつ計画的に推進すること。

平成26年4月30日

西知多道路推進協議会

会長	愛知県知事	大村 秀章
副会長	名古屋商工会議所会頭	岡谷 篤一
副会長	(一社)中部経済連合会会長	三田 敏雄



国道 247 号の渋滞状況（東海市市内）



LCC による国際線新規乗り入れ



開発が進む空港対岸部（常滑市市内）



知多半島道路の交通事故状況



< 西知多道路推進協議会 構成団体 >

- 愛知県
- 名古屋市
- 東海市
- 知多市
- 常滑市
- 名古屋港管理組合
- 名古屋商工会議所
- 一般社団法人中部経済連合会
- 中部国際空港株式会社